



# 避難所は「わが家」です

## ■「M9・震度7」も覚悟しよう

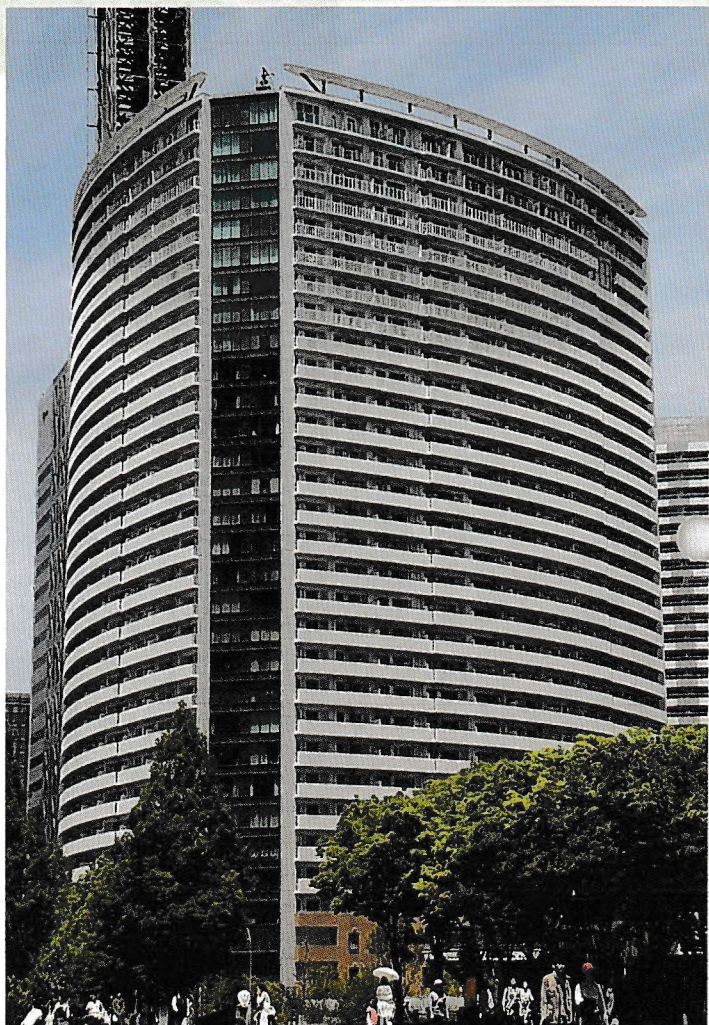
マグニチュード（M）9.0、震度7——。東日本大震災は「日本最大、世界で4番目」という途方もない規模で襲ってきました。先の地震学会では「もはや（世界に観測例がない）M10も否定できないのでは」との声も上がったそうですが、いつ、どこに、どんな規模で起きるか、まったく読めないのが地震です。先例が“巨大（M8以上）”である以上、同じ規模の再来も十分ありうると考えるのが自然です。

## ■ミッドスクエアは骨太

ミッドスクエアは、たとえ「震度6～7」級の地震が来ても倒壊や崩壊はせず、損傷はあっても軽微で済む姿が求められ、造られています（新耐震設計基準）。

私たちが経験済みなのは3・11の際の震度5強（横浜市西区の場合）ですが、設計・施工に関わってきた専門家はこう言います。「あの程度の揺れでは構造体としては何のダメージも受けません。MM地区では優れて堅牢なビルであることが改めて確かめられました。強力な免震装置としっかり築いた基盤の効果でしょう」。

また著名な建築家の隈研吾さんも、ある対談の中で「ダメージは、建物の固有振動、地面の固有振動、地震波の震動数の3つの相関で決まります。現在の日本の構造設計法はそれらのどの組み合わせになっても十分な耐震性があるよう安全率が高めに設定されているのです。超高層は揺れるけれど、それでも壊れないようになっていますよ」と評価しています。



## ■“究極”の避難所

「震度7」は気象庁が定めた震度階級の最大値で、《人は動けず、翻弄されて飛ばされることもある》激震です。また鉄筋コンクリートの建物の場合は《1階や中間階での変型や、まれに傾くものもある》とされていますが、免震型超高層マンションなど新しい建造物の場合はまだ規定されていません。「いずれ定まるでしょうが、雑談として私見を言うならかなり安全度が盛られるのでは」（気象庁地震津波監視課）という話です。こうしてみても、外部への避難は原則無用です。「わが家」に勝る避難所はないのですから。